

羅 針 盤			方 策	点検・評価		達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等			
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	① 特色ある教育活動に積極的に取り組んでいる生徒が80%以上である。	・1日研修旅行やクラスマッチなど特色ある行事等の特別活動と部活動を充実させ、生徒の諸活動の活性化を図る。「総合的な探究の時間」の活動を通じ、社会との結びつきや職業観の獲得の重要性への理解を促す。	A	A	A	・全ての生徒が「総合的な探究活動」や学校行事に積極的に取り組んでいると考えており、ほとんどの保護者も同様の理解をしている。生徒の積極的な取組の中で職業観の伸長を図れるように、実施内容をさらに工夫していきたい。	・地域の発展に関係した取り組みを期待したい。 ・充実した学校生活が送られている。
		② 自分の学校が好きだと感じている生徒が80%以上である。	・学級活動、学校行事、部活動に生徒が積極的に取り組むことで、生徒が自己有用感を高められるよう、本校の五常の教えを踏まえ、継続して生徒の主体性を大切にする教育活動を推進していく。	A	A	A	・ほとんどの生徒が学校生活を充実したものと捉えており、学校行事等の場面で生徒が主体的に取り組み姿勢が見られた。各行事等に生徒が意欲的に取り組めるよう引き続き支援・指導を行ってきたい。	・自己有用感を高めることが重要だ。 ・今後も継続して生徒の主体性を大切にす教育活動を進めてほしい。
		③ 三修制を利用して、95%以上の生徒が3年間で卒業している。	・三修制は本校の大きな特徴であり、説明会等を通して、生徒・保護者の理解を促す。また、学校に軸足を置いた生活習慣の確立を継続的に指導し、保護者とも協力しながら長欠者・退学者を出さない環境づくりに努める。	B	A	B	・生徒、保護者ともに三修制を十分理解し、ほとんどの生徒は意欲的に学校生活に取り組んでいる。欠席の多い生徒もあり、3年間で卒業という目標に向け、SC等の協力を得て、生徒への支援をさらに充実させていきたい。	・今後できるだけ長欠者、退学者を出さないように努めてほしい。 ・全日制と同じ3年間で学習できることは、生徒の自信につながるだろう。
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	④ 「授業がわかりやすく、授業によって学力が身についている」と思う生徒が80%以上である。	・学力の3要素のバランスのよい授業展開を意識し、基礎基本の定着と主体的な学びの両立のための授業改善に組織的・計画的に取り組む。また、授業外の個別指導や長期休業中の補習を充実させ、生徒の個性や個別最適な学びを意識した指導を進める。	A	A	A	・ほとんどの生徒が、教員の説明がわかりやすく、授業によって学力がついていると考えている。基礎力重視の授業展開の中で、ICTの活用、グループ学習、発表の機会等を取り入れ、生徒が主体的に学習できる工夫に各教員が取り組んできた。多様な生徒が意欲的に学ぶための授業改善をさらに進めていきたい。	・教師の分かりやすい授業実践の工夫およびその成果が十分感じられる。 ・教師の学習指導への取組に感心する。継続してほしい。
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑤ 成績不振者は全生徒の5%以下である。	・保護者との連絡・相談を密にしながら家庭での協力を仰ぎ、個別指導や補習を通して、生徒一人一人の実態に応じた丁寧な指導を継続する。	A	A	A	・ほとんどの生徒が意欲的に学力を向上させた。学力不足・意欲不足の生徒に対しては、個別指導、補習、提出物指導等を教科担当、担任が保護者と連携しつつ行い、成績不振にならぬよう支援した。引き続き、保護者の理解を得つつ、丁寧な指導を行ってきたい。	・今後も学力向上のために多様な支援をお願いしたい。 ・保護者との連携の下、丁寧な指導を継続してほしい。
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑥ 生徒に関する情報交換を週1回以上実施している。	・組織的な対応を前提として、情報交換による共通理解が日常的に行われる、風通しの良い職場環境をより一層整備していく。	A	A	A	・職員会議、打ち合わせ、職員室での会話等の中で情報共有を深めることができた。ほとんどの教員が上記の機会を通じて生徒の情報交換ができていていると考えている。次年度も引き続き情報共有を進め、組織的な指導体制を構築していきたい。	・情報交換、情報共有ができる職場環境を引き続き大切にしてほしい。 ・職員間のコミュニケーションを図り、生徒への適切な指導をしてほしい。
		⑦ 生徒会活動が充実していると評価する生徒が80%以上である。	・対面式、クラスマッチ、校内発表会等を中心に、生徒会役員と全校生徒による主体的な生徒会活動が行われるよう、継続的に指導していく。	A	A	A	・生徒会役員が学校行事を企画・運営し、全校生徒が協力して行事を進めていけるよう、教員が支援した。ほとんどの生徒が生徒会活動に積極的に取り組めたと考えている。引き続き、生徒の主体的な活動のための支援・指導を工夫していきたい。	・生徒・教員が100%近い達成度を示す数値からその充実ぶりがうかがえる。
	5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	⑧ いじめの発生防止に努め、いじめの解消率が100%である。	・定期的ないじめアンケートに加え、普段から教職員一人一人が生徒の状況をよく観察し、組織として情報共有することで、早期発見、早期対応に努め、本校の五常の教えを踏まえて、いじめの未然防止と解決に努める。	A	A	A	・いじめ防止のために、声かけ、面談等を継続的にし、生徒相互、教員との信頼関係を作ることに努めた。生徒生活アンケートや日頃の生徒観察により、いじめの早期発見を図った。引き続き、いじめ防止に関する取組を促進し、保護者面談等を通じて、学校の取組を保護者に伝えていきたい。	・生徒と教員間の信頼関係、距離の近さを感じられる。 ・いじめの早期発見・早期対応を今後も継続してほしい。
6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	⑨ 欠席、遅刻者数は、全生徒数の5%以下である。	・基本的生活習慣の確立に向けて、欠席・遅刻・早退を減らす指導を、家庭の協力を得ながら継続していく。スクールカウンセラー制度も必要に応じて積極的に活用し、外部機関との連携も重視する。	C	A	B	・家庭の協力を得ながら、生徒の基本的生活習慣の確立に努め、保護者からも理解を得ることができた。規則的な生活を送っている生徒も増えてきているが、遅刻・欠席の多い生徒も複数いる。保護者への連絡を密にしつつ、遅刻・欠席数の減少のための支援・指導を進めたい。	・今後も保護者との連絡を密にして、生徒の生活習慣の確立を図ってほしい。	
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	⑩ 進路通信等を月1回以上発行する。	・1学年から進路意識の向上・職業観の育成のための組織的・計画的な指導を実施する。進路通信「船出」を計画的に発行し、外部との連携も継続していく。	A	A	A	・進路通信「船出」を定期的に発行し、進路に係る行事のまとめや最新の進路情報を生徒、保護者に発信した。また、地域在住の講師を招いて、キャリア教育講演会、地域活性化実践活動講演会を開催し、地域連携の下、生徒の職業観を育成した。地域との繋がりの中で、生徒の進路意識を育成できる取組を今後も工夫していきたい。	・行事の充実を図り、進路意識の醸成を実践してほしい。
		⑪ 家庭での話し合いを促し、生徒の将来の志望について理解している保護者が80%以上である。	・学校からの配布物が保護者に届くように連絡を徹底するとともに、面談等を通して進路に関する家庭内での話し合いを促す。生徒と保護者が共通理解の中で進路実現に進んでいけるように支援をしていく。	A	C	C	・保護者面談、個別面談における進路相談について、ほとんどの保護者・生徒が評価している。進路志望について、ほとんどの生徒が保護者が理解していると考えているのに対し、理解している保護者がやや少なかった。両者の共通理解の下、進路実現に向かえるよう、日頃の保護者連絡を密にし、面談内容の充実を図ってきたい。	・進路希望における生徒と保護者との共通理解がより深まるよう、地道に支援を続けてほしい。
	8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	⑫ 好ましい職業観を育成できるよう、在学中に就業体験をした生徒が80%以上である。	・勤労青年の学びの場としての定時制の理念に基づき、ハローワークなど外部機関との連携を図りながら、生徒の社会性や自己肯定感の育成のためにも継続して就業体験を支援する。アルバイトだけでなく、インターンシップを実施していく。	A	A	A	・「総合的な探究の時間」において、行政機関インターンシップ、企業インターンシップ、各インターンシップ報告会等を行い、地域との交流の中、生徒のコミュニケーション能力が向上した。ほとんどの生徒が「総合的な探究の時間」に積極的に取り組めたと考えており、年間を通じた活動が自己肯定感の伸長にもつながった。次年度は、より生徒の実態に合った実施内容にするるとともに、校内活動の充実も進めていきたい。	・地元との交流をさらに充実させ、人口減少抑制につなげてほしい。 ・就業体験の充実の観点から、外部機関や地域企業等との連携を継続してほしい。
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑬ 学校便り等(5:30新聞及び5:30新聞ミニを含む)を月1回以上発行する。	・年1回の「5:30新聞」や毎月の「5:30新聞ミニ」、進路通信「船出」などの発行により、本校定時制の教育活動について、保護者・地域へ理解を求め、また、本校定時制ブログ「笑顔の5:30」を週1回程度更新し、定時制教育の魅力を発信する。	A	B	B	・「5:30新聞ミニ」(学校便り)、「船出」(進路通信)の定期的発行及びホームページへの掲載を定期的に行い、また、「笑顔の5:30」(定時制ブログ)の更新を行い、情報発信に努めた。ほとんどの保護者が情報発信について評価している一方、配布物を保護者に渡している生徒がやや少なかった。通信・ブログの内容の充実を図るとともに配布物等の連絡を生徒が保護者に伝えるための指導も行っていきたい。	・配布物を保護者に渡せていない生徒への指導の工夫が必要である。
		⑭ ホームページの更新を毎月実施する。	・全日制と連携しながら、定時制のホームページを適宜更新し、より一層の情報発信に努める。また、必要に応じて、HPのレイアウトなどを、より見やすい形に工夫していく。	A	A	A	・ホームページにおける「5:30新聞ミニ」(学校便り)、「船出」(進路通信)、「笑顔の5:30」(定時制ブログ)の更新を継続して行い、学校生活や進路指導について、地域、保護者に発信した。次年度は、全日制との連携の下、わかりやすい内容の情報発信に努めるとともに、保護者面談、学校説明会等の機会をとらえて、ホームページにおける定時制情報の広報も充実させていきたい。	・多様な中学生の進路選択の充実のために、定時制による情報発信は大切な活動である。
		⑮ 保護者面談の他、公開授業を年2回以上実施する。	・保護者面談、公開授業、学校見学の随時受入を継続して行う。沼田高校定時制の広報に努め、中学校訪問も随時実施する。	A	A	A	・公開授業を2回実施した。1回目は本校保護者対象(6月)、2回目(11月)は中学生・保護者及び本校保護者対象に行った。また、公開授業に参加できなかった中学生・保護者に対し、希望に応じて個別に学校見学を実施した。中学校が主催する学校説明会にも随時参加し、説明を行った。次年度も引き続き、丁寧な広報を行ってきたい。	・定時制教育の意義・魅力を知ってもらおう大事な機会である。
VI 教育デジタル化に努めていますか。	10 ICTを活用した指導を行っていますか。	⑯ ICTを活用した教育活動に80%以上の生徒が満足している。	・ICT機器を活用した授業や、Chromebookを活用した授業展開や学校行事等におけるICT機器の利活用を進める。生徒の情報機器の活用力を高めると同時に、情報リテラシーの向上を促す。	A	A	A	・授業や探究活動において、スクリーンを使用した教材提示やクロームブックを活用した個別学習・グループ学習を取り入れ、ほとんどの生徒が充実した活動になったと評価している。引き続きICTの効果的な活用についての研究を行い、より分かりやすい授業、協働的な学習活動につなげていきたい。	・保護者に経済的負担がかからぬように配慮してほしい。 ・定時制の授業におけるICT活用は有効性が高い。
		11 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	⑰ ICTを活用した通知・連絡に、生徒・保護者の80%以上が満足している。	・対面では伝えにくいこともオンラインだと伝えやすいという生徒も増えている。対面・電話に加え、Google Classroomやオンラインチャットなどの連絡ツールを活用することで、通知・連絡を密に行い、学校と家庭の信頼関係を強くしていく。	A	B	B	・全体への通知、アンケート等でICTを活用し、生徒・保護者との密な連絡に努め、多くの保護者がその取組を評価している。保護者からの連絡・相談等については、引き続き、電話・対面での個別対応を行った。次年度は、生徒・保護者にとって、より分かりやすい連絡・アンケート等の実施に向け、ICT活用の工夫を進めていきたい。